

もくじ

1. エントツそうじとひつじかい 2
2. おじいさんのすることにまちがいはない34
3. マッチ売りの少女60
4. 白鳥の王子78
5. あるもみの木の物語 100
6. 人魚姫 122

エントツそうじと ひつじかい

原作： アンデルセン童話

イラスト： さくらい みゆき

編集： YellowBirdProject

「すごいよ、マリー。これが外の世界なんだ・・・」

「ええ。信じられないわ・・・」

ロランとマリーは、寄り添って煙突のふちに腰掛けていました。

天井の無い空はどこまでも広がっていて、いたるところに、黄色い星がまたたいていました。辺りを見回せば、この煙突の先よりもはるかに高い建物がいくつも並び、夜だというのに、こうこうと光る町の明かりで目がくらみそうです。

初めて見る外の世界に、最初は感動していた二人でしたが、だんだんと心の中に、不安が広がってきました。

「ねえ、ロラン。私たち、本当にこの外の世界で、生きていけるのかしら」

マリーが問いかけましたが、ロランは口をつぐんだまま、答えることができませんでした。



おじいさんが牛を引いて歩いていると、今度は、羊を
連れて来た若い女性に出会いました。

(お、羊もいいなあ。羊なら毛を刈って毛糸が取れるし、
家の周りに生えている雑草も、みんな食ってくれる。

ばあさんも、牛より羊の方が喜ぶだろう)

おじいさんは若い女性と話して、牛と羊を取り替えまし
た。



はじ み うみ うえ せかい
初めて見る、海の上の世界です。

まんてん ほしぞら み とつぜん
セレーネが満天の星空に見とれていると、突然、ドーンと

おお おと とち はなび あ いろ はなび
いう大きな音と共に、花火が上がりました。色とりどりの花火が、
よぞら たいりん はな さ
夜空に大輪の花を咲かせました。

いわば こしか しせん うつ さき
岩場に腰掛けていたセレーネが、ふと視線を移すと、その先に、
いっ おお ふね う すてき おんがく
一そうの大きな船が浮かんでいました。素敵な音楽が、かすか
き
に聞こえてきます。セレーネは気付かれないように、そっと船の
ちか
近くまでいってみました。

ひとり わかもの ふね うみ
一人の若者が、船のデッキから海をながめていました。その
わかもの ちか くに す おうじ きょう おうじ たんじょうび
若者は、近くの国に住む王子でした。今日は王子の誕生日で、
ふね うえ せいだい ひら
船の上で盛大なパーティーが開かれていたのです。

はじ み にんげん わかもの ひとめ こい お
初めて見る人間の若者に、セレーネは一目で恋に落ちて
しまいました。

よ ふ ちか きゅう かみなり な うみ
しかし、夜更けが近づいてくると、急に雷が鳴り、海が
すこ あ
少しずつ荒れてきました。

